

地質ニュース

昭和 42 年 9 月

第 157 号

1967

解 説	世界のウラン資源と原子力発電	肥田昇 林昇一郎	1
	第3次沖縄天然ガス鉱床調査の記録	福田理ほか	14
トピックス	ウイルド B 8 アビオグラフ実体図化機の紹介	川野辰男	32
講 座	地球化学の話 ③	高橋清	36
	水井戸の話 ⑩ 水の流れ	村下敏夫	44
海外事情	ドイツ連邦共和国の各州地質調査所 ①	神戸信和	46
資 料	堆積岩の研究手法 ⑨	平山次郎 渡部美南子	54
	地学と切手	堀内恵彦	35
	学会掲示板		31

編 集 地 質 調 査 所

表紙の写真

砂浜の貝殻 能登路 5

富来湾に面した増穂浦は、外浦海岸にあっては珍しく規模の大きい砂浜である。その名をとくに高めているのが、三十六歌仙として知られる海辺に打ち上げられる美麗な貝の遺骸群である。貝殻の種類は四季により変わるといわれるが、写真は5月に富来川河口近くの波打ち際で撮ったものである。朝日をうけ色とりどりに輝く貝殻のなかには、サクラガイ、ニシキガイ、マテガイ、ハマグリ、ザルガイ等々数えきれぬほど豊富である。黒色のシジミは淡水性であり、河口近いため混じり込んだものであろう。約3kmの増穂浦の海浜は場所によっては砂に泥質混じりとなり、そこでは貝殻の種類も異なってくる。貝が環境条件に敏感であり、地層中に産する化石が堆積環境の指示者として重視される理由がわかるようである。

(盛谷智之)

発行 株式会社 実業公報社